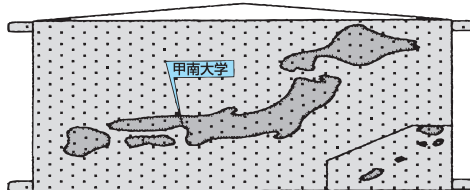


Zephyr

〈第77号〉

ゼフィール・にしかぜ



<https://www.konan-u.ac.jp/kilc>

《特集＊兵庫県と世界の友好・親善都市》

★所長からのメッセージ：姉妹都市・友好都市とダイバシティ	藤原三枝子	2
〔英語〕 The Blue Mountains, New South Wales, Australia	S. McNamara	3
〔ドイツ語〕 兵庫県とドイツの国際交流	野村 幸宏	4
〔フランス語〕 兵庫県とフランスの深いつながりについて	中村 典子	
	ディディエ・シッシュ	5
〔中国語〕 友好都市 神戸市と天津市	胡 金定	6
〔韓国語〕 日韓における地方間の交流と現実	金 泰虎	7
〔日本語〕 友好・親善には日本語も	谷守 正寛	8

甲南学園創設者

平生鈞三郎

「世界に通用する

紳士・淑女たれ」



「英語＋1（第2外国語）」
教育プログラム

「使える外国語教育」

国際言語文化センター機関紙（年3回刊行）

兵庫県と世界の友好・親善都市

国際言語文化センターは、様々な言語と文化の学習を通じて、国際的に活躍できる人材を育てるといふ大きな目標を持っています。そして言語・文化を大学で学ぶだけではなく、短期の海外語学講座から中長期の奨励留学、交換留学制度など、様々なプログラムを取りそろえ、また留学生の積極的な受け入れにも尽力しています。

こうした国際的な交流は、何も大学にとどまることはありません。例えば甲南大学が立地する兵庫県そして神戸市も、世界の様々な都市や地域と、姉妹都市、あるいは友好提携関係を結び、人的、文化的、経済的な交流を行っていることはご存知でしょうか。今回のゼフィールは、大学という枠組を超えて、兵庫県が世界のどのような都市や地域と交流しているのかを見てみようと思います。

2020年は世界的な新型コロナウイルスの流行を受け、留学など国際的な交流に大きな影響が出てしまっていますが、今だからこそ、「身近な」国際交流のチャンネルに目を向け、色々な知識や情報を集めておくこともよいのではないかと思います。もちろん、兵庫県や神戸市にとどまらず、皆さんが住んでいる、あるいは出身の市町村も、世界各国に姉妹都市や友好提携都市を持っているかもしれません。この特集をきっかけに、都市や地域が推進している国際交流により多くの人に関心を持ち、実際に参加できるようになればと願っています。

どのような状況も、永遠に続くものはありません。近いうちに国と国の間の往来が正常化し、従来以上に活発な国際交流ができる日が来るのを楽しみにしながら、今の状況を乗り越えていきましょう。

（野村 幸宏）

姉妹都市・友好都市とダイバシティ

国際言語文化センター所長 藤原 三枝子

甲南大学には、学園の創立者平生釵三郎が提唱した「世界に通用する紳士・淑女たれ」という建学の理念があります。この理念のもと、甲南大学は長年にわたりグローバル人材の育成に努めてきました。国際都市、神戸にある大学にふさわしい建学の精神と言えます。

神戸市が姉妹都市・友好都市・親善協力都市関係を結んでいる都市を調べると、8カ国10都市とつながっていることが分かります。加えて、姉妹港、友好港の関係を結んでいる港が3カ国3港あります。神戸市は2017年に開港150年を迎えましたが、まさに日本と海外とを結ぶ懸け橋として発展してきた神戸市の歴史を感じさせます。神戸北野異人館街に足を運ぶと、そこは異国情緒に溢れ、昔からたくさんの外国人が住み、ここできっと故郷に思いをはせていたであろうことを感じ取ることができます。こうした市の発展の歩みからも神戸市では外国の人々や文化を尊重し受け入れる土壌が培われ、多様性（ダイバシティ）を大切にする土地柄だということができるでしょう。

遠く離れた地域や都市同士が、国際的な友好的関係を結ぶ第一義的な目的は、市民間での活発な交流を通じて、互いの文化や行動様式の違いを認めて理解し合う関係を築き上げることでしょう。そうした姉妹都市成立の経緯はさまざまだと思いますが、市民間での一つの活動が契



バート・ゼッキンゲン市

機となって姉妹都市に発展する場合も少なくないようです。私は山形県長井市という、人口2万6千人の地方都市の出身ですが、長井市はドイツのバート・ゼッキンゲン市と1983年以来、姉妹都市関係にあります。両市の提携のきっかけとなったのは、日独スポーツ少年団交流事業のうちに、



長井市

当時の西ドイツ出身の青少年をホームステイで受け入れ、その後、長井のスキー連盟の方がバート・ゼッキンゲン市を訪れるなど、市民の交流を経て、1983年にバート・ゼッキンゲン市で、1984年には長井市で姉妹都市としての調印が行われとあります。この時、バート・ゼッキンゲン市から23名が長井市を訪れていますが、私はこの際に、通訳の一人として働いたことを懐かしく思い出します。

姉妹都市・友好都市の歴史は古く、ドイツのパダボーン市と、24時間レースで有名なフランスのル・マン市との提携は836年まで遡ることができるようです。パダボーン市のホームページを見ると、姉妹都市のリストの最初にル・マン市が掲載され、この姉妹都市関係が世界で最古のものだろうと述べられています。断続的であったとしても、両市の友好関係が現在まで受け継がれていることは素晴らしいことです。このパダボーン市の姉妹都市として7カ国7都市に加えて、EU（ヨーロッパ連合）が掲載されています。同市は、EUのサポートを受けて、2018年に「市民のためのヨーロッパ」(Europe for Citizens)の枠組みで、ヨーロッパの様々な国から多くの市民を招いて、総勢135人の「ヨーロッパ人」が集結し5日間にわたり文化交流が行われたとあります。EUの理念は「多様性の中の統合」(United in diversity)です。パダボーン市が姉妹都市・友好都市の一覧に、EUを加えていることは、こうした国際連携の本来の意味を的確に表しているとも言えるでしょう。

参考ホームページ：

<https://www.city.kobe.lg.jp/>

<https://www.city.nagai.yamagata.jp/>

<https://flower-liner.jp/>

<https://www.paderborn.de/>

The Blue Mountains, New South Wales, Australia

国際言語文化センター英語特定任期教員 S. McNamara

This article will introduce the Blue Mountains, a region of Australia 1 hour west of Sydney, and a sister city to Sanda, in Hyogo, Japan.

Firstly, they are not blue. They're green, but from a distance the eucalyptus trees have a slight blue shade. They *are* mountains, but they are not very big mountains. They are about the same height as the Rokko range, but as the tallest mountains in Australia, they wouldn't reach to the knees of Mt. Fuji. And why are the mountains so small in Australia? Well, Australia is one of the geologically (地質的に) oldest lands in the world, breaking from Pangea very early, so wind and rain has made the landscape very flat.

This also explains the strange animals in the country- they have a different evolutionary (進化の) history, and in the mountains you can find many animals that would be very strange to find in Sanda. For example, you might see an Echidna (an animal similar to a hedgehog), or a platypus (half-duck-half-beaver, very poisonous), or perhaps even a koala.

One "animal" you may not want to meet is the legendary Bunyip. Not many people have seen this creature and have lived to tell the story. The Bunyip legend goes back possibly as far as 60,000 years (!), and is a beast found in old Aboriginal stories. It lives in the river, and, depending who you ask, is responsible for death and suffering for anyone who goes near. It is reported to have turned people to stone, to have drowned children and young women, and to have spread disease in the



Bunyip - Artist Unknown - 1935

waters. No one has taken a photo of the Bunyip, but sketches and paintings of this monster are utterly terrifying! Does this sound similar to any Japanese *yōkai*? Perhaps the Bunyip is a distant cousin of the *Kappa* of the *Mukogawa*!

If you manage to avoid this horrendous monster, the Blue Mountains is a very pleasant place to visit. It is an area of great natural beauty and vibrant mountain culture, and being so close to the big city, is a must-see for any visitor to the region.

兵庫県とドイツの国際交流

国際言語文化センター准教授 野村幸宏

「牛」の絵を描いてください、と言われると、多くの人は白地に黒の斑点が入った牛を描くのではないのでしょうか。この品種はホルスタインと呼ばれますが、皆さんも一度は耳にしたことがあると思います。このホルスタインという名称は、実はドイツのシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州 (Schleswig-Holstein) にちなんでいる、ということあまり広く知られていないかもしれません。このシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州ですが、甲南大学がある兵庫県と1997年から友好提携関係があり、2017年にはその20周年を記念して、兵庫県の代表団が同州を訪問し、州政府との交流協議や共同声明の調印を行いました(出典:『副知事のシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州訪問』、兵庫県ホームページ <https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr13/documents/schleswig-holstein.pdf>)。日本でイメージされるドイツといえば、ライン川があるドイツ中西部やアルプス山脈近辺の南部ドイツが主で、例えば旅行会社のパンフレットを並べてみても、ドイツの北端に位置するシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州を扱ったものはほとんどありません。兵庫県が友好提携関係にある同州は、どのようなところなのでしょう。ここでその一部を紹介したいと思います。

この州はバルト海と北海に挟まれた半島に位置し、ドイツには珍しい、広く海に面した州です。そのため、古くから海運業と漁業で、20世紀には造船業で栄え、またその中でも州都であるキール (Kiel) の港は軍港 (ドイツの潜水艦、Uボートの基地) として、戦後はノルウェー、スウェー



デンやバルト三国のへ豪華フェリーの発着港として国際色豊かな「ドイツの北の玄関」として重要な機能を果たしています。また、海が近いことから、ドイツでも有数のリゾート地、白砂の海水浴場やヨットハーバーが点在し、おいしい魚介料理が味わえるのもこの地域ならではのです。そして毎年6月に1週間もの間にわたっておこなわれるキールのヨット祭り、キラーヴォッヘ (Kieler Woche = キールの週) には、世界各国から

帆船やヨットが集まる圧巻の光景を見ることができます。QRコードをスキャンすると、このお祭りのメインのひとつ、帆船のパレードの様子をビデオで見ることができます。このように海と港を背景に栄えている州都キールは、兵庫の県庁所在地で日本有数の港町である神戸との共通点が見えてくるかと思えます。

シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州は、歴史的には神聖ローマ帝国に属した時期もあれば、一時はデンマーク領だったこともあった関係で、一部の地域は「典型的なドイツ」に少し北欧のテイストが入ったところがあり、ドイツの中でも独特な雰囲気を持った、魅力的な地域です(写真は州の北部の街、シュレスヴィヒの住宅街)。

あまり日本で知名度が高いとはいえないこの州ですが、様々な魅力を持った街、文化や歴史があります。その中から最後に、州の第二の都市、リューベック (Lübeck) にも簡単に触れておきます。元祖というわけではないのですが、砂糖とアーモンドを練り合わせたマジパン (マルチパン/Marzipan) で有名な街ですが、中世からハンザ同盟の都市として栄え、近代から現代にかけてはノーベル賞受賞者を2人 (ヴィリー・ブランド:政治家、ノーベル平和賞とトーマス・マン:小説家、ノーベル文学賞) を輩出し、レンガ造りが特徴的な街全体が世界遺産として登録されているなど、様々な顔を持った魅力的な街です。是非一度、リューベックのオフィシャル旅行サイト <https://www.luebeck-tourismus.de/> にアクセスしてみてください。ただ、ドイツのサイトは「視覚に訴える」というよりは文字情報が中心なので、写真が探しにくいのが…このあたりにも文化の違いを感じます。

現在はコロナ禍のため、具体的な交流イベントなどは予定されていないようですが、また状況が良くなって、兵庫県とシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州の交流が深まり、この州の魅力が私たちにとってもっと身近に感じられるように、そして同州の人たちに兵庫県の魅力をもっと知ってもらえる日が来ることを願っています。



兵庫県とフランスの深いつながりについて

国際言語文化センター教授 中村典子

国際言語文化センター教授 ディディエ・シッシュ

兵庫県は、フランスと深いつながりがあります。留学に興味を持っている人が耳にしたことのある **HUMAP 奨学金** は兵庫県独自のものです。**HUMAP (Hyogo University Mobility in Asia and the Pacific : 兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク)** は、兵庫県内の大学とアジア・太平洋地域の大学との交流を深め、兵庫県内の教育・研究の水準の向上を図ることで、将来の発展を担う人材を育成する目的で2000年5月に発足されました。留学生を支援するための「**留学生交流**」、研究者間の共同研究を推進する「**学術国際交流**」の二つの柱があり、後者については、**HORN 事業による短期客員教授**の制度により国際言語文化センターでは、3人の研究者の招聘を実現しました(2006年: トゥール大学名誉学長・名誉教授のジャック・ボディ Jacques BODY 先生、2010年: パリ第三大学准教授のミュリエル・デトリ Muriel DÉTRIE 先生、2017年: モロッコ出身でカナダのモンクトン大学教授のサミラ・ベリヤジード Samira BELYAZID 先生)。この方々が1ヵ月間、本学に滞在し、フランス語・フランス語圏の文化の授業でゲストスピーカーを務め、学生と地域の住民が参加した「**国際シンポジウム**」にて「**多文化共生社会**」に関する基調講演を行いました。

欧州との経済・文化交流の促進、相互理解の深化を図るための「**兵庫県パリ事務所 (Le Bureau de Hyogo de Paris)**」はオペラ座近くにあり、フランスのセーヌ・エ・マルヌ県、アンドル・エ・ロワール県、アヴェロン県、ノール県、ドイツのシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州など欧州自治体との交流を深めています。 本学のエリアスタディーズ (フランス) のコースでは、2019年2月に学生25名、2020年2月に学生23名と一緒に私たちは兵庫県パリ事務所を訪れて現地実習を行いました。

★住所: 10 rue de Louvois, 75002 Paris France ★HP: <https://www.hyogoeurope.net/>
では、ここからは、パリジャンのシッシュ先生にパリの魅力について教えていただきましょう。



左岸: 芸術橋 (Pont des Arts) と
フランス学士院 (Institut de France)



右岸: モンマルトルの丘 (Butte Montmartre)

20の区 (arrondissements) に分かれているパリは、フランスの政治、文化、経済などの中心です。セーヌ川の南部は「**左岸 (rive gauche)**」、北部は「**右岸 (rive droite)**」と呼ばれています。左岸は「知識人と歴史のパリ」であり、右岸は「消費者と商店街のパリ」です。因に、有名なシャンゼリゼ大通りは右岸にあります。パリは非常に美しい街です。もちろん、美術館と歴史建造物の魅力は言うまでもありませんが、建物の高さや色が揃っていて調和している街並みも強く印象に残るはずで**す。** 中世から現代に至るまで、パリは多くの作家や芸術家にインスピレーションを与えてきました。例えば、19世紀の小説家のバルザック (Balzac) の『人間喜劇』(La comédie humaine) の中には、「パリ生活風景」(Scènes de la vie parisienne) という部分があります。また、ヴィクトル・ユーゴ (Victor Hugo) の『レ・ミゼラブル』(Les Misérables) という作品は、パリの下町を描いています。絵画の世界でも、パリを舞台にした作品は少なくありません。例えば、19世紀後半の印象派の画家たち (Impressionnistes) はパリの駅、カフェ、レストラン、通りなど、日常生活の場面を描写しました。パリの街並みが、文学や美術にも大きな影響を与えているといえるでしょう。

友好都市 神戸市と天津市

国際言語文化センター教授 胡 金 定

中国は日本にとって隣国であり、日本が最も影響を受けてきた国です。日本が初めて中国から影響を受けたのは、紀元前3～2世紀ごろに稲作が伝わったというところまでさかのぼることができます。両国には二千年にもおよぶ友好往来の歴史があります。

日本は江戸幕府時代に初めて清国と日清修好条約を締結しましたが、近代百年は、おおむね対立と抗争、侵略という暗い歴史です。日中戦争は1945年8月、日本がポツダム宣言を受諾したことによって日本の敗北となり、1949年10月に中華人民共和国が成立されました。しかし、1945年8月の日本敗戦から1972年9月の「日中共同声明」による日本と中国との国交締結までの27年間、両国間に国交はありませんでした。ですから、「国交回復」ではなく、「国交正常化」と称されます。また、1978年、「日中平和友好条約」の締結により、1世紀もの二国間の不正常な状態を終結し、日中間の前途に輝かしい展望が切り開かれました。

日本と中国の自治体提携上「友好都市（中国語では「友好城市」）」という名称を使っていますが、「姉妹都市」は使いません。「姉妹」という言葉は上下の関係が生じるからです。以前は多くの自治体が中国の都市ならば「友好都市」、中国以外ならば「姉妹都市」と使い分けていました。現在は中国以外でも「友好都市」を使うことも増えてきました。

1972年の日中国交正常化を契機に、両国の新しい関係性が始まります。翌年には中国と日本の友好都市提携の第1号として、神戸市と天津市が提携を結びました。これは、中国にとって初めての外国の都市との友好都市提携でもありました。

神戸港は諸外国と日本をつなぐ玄関口として栄えてきました。とりわけ、中国との関係では1930年代の日本の対中国貿易の3割から4割が神戸港で行われていました。多数の華僑が神戸市で商工業を営み、総領事館も設置されました。神戸市は中国との関係を語る上で、地理的・歴史的にも重要な拠点であった経緯から、1971年に宮崎辰雄神戸市長は郭沫若中日友好協会名誉会長及び廖承志同協会会長などの関係者に「友好都市」提携の希望を伝えます。1972年の国交回復後、訪中した宮崎市長は周恩来首相と会見し提携先として天津市を推薦されます。1973年5月に「神戸市訪中代表団」は天津市を訪問し、「友好都市」の名称を使用すること、両国人民の末代まで友好を発展させること、互惠平等の原則に基づき実現可能なものを着実に実行することを約束しました。そして同年6月に宮崎市長が訪中し、天津市人民礼堂において提携式が行われました。

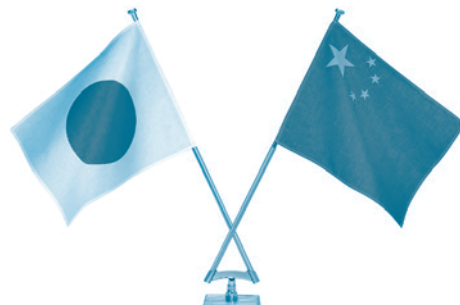
友好都市提携後、神戸・天津経済貿易連絡事務所が天津に開設されました。そして天津港との友好港提携の調印、神戸-天津定期フェリー「燕京号」の就航、王子動物園と天津動物園との連携、さらには両市の都市ブランドを向上させるべく商業活動の支援や市長の相互訪問、両国の小・中学生の交流、天津プロサッカーチームと神戸市女子サッカーチームとの交流試合など、団体や市民レベルでの交流も盛んに行われてきました。

現在、両市に記念モニュメントが多数あり、天津市には天津水上公園内に日本庭園「神戸園」、神戸市には市立森林植物園にあずまや「依留亭」や新神戸駅前生田川河岸に「百龍嬉水」「連翼亭」、ポートアイランド南公園に平和の珠「天津の石」などがあります。

歴史的な結びつきに基づいた神戸と天津の「友好都市」は平和・友好交流の構築を原点に据えて、「恒久的な友好関係」を作り続けています。

その他、兵庫と中国の友好提携を一覧で紹介します。

- ▽兵庫県と広東省 1983/ 3/23
- ▽兵庫県と海南省 1990/ 9/28
- ▽神戸市と天津市 1973/ 6/24
- ▽明石市と無錫市（江蘇省）1981/ 8/29
- ▽尼崎市と鞍山市（遼寧省）1983/ 2/ 2
- ▽伊丹市と佛山市（広東省）1985/ 5/ 8
- ▽西宮市と紹興市（浙江省）1985/ 7/23
- ▽姫路市と太原市（山西省）1987/ 5/20
- ▽播磨町と和平区（天津市）1993/ 3/25
- ▽多可町と三水市（広東省）1996/12/10
- ▽淡路市と義烏市（浙江省）2014/ 7/11



2020年10月末現在、日本と中国の友好都市提携は390件に上っています。この数字からも、日中の地域間における友好交流は盛んであることが窺えます。これからもさらなる友好関係の深化・進化に向け、文化・教育・経済など様々な分野の交流を推進していく必要があります。

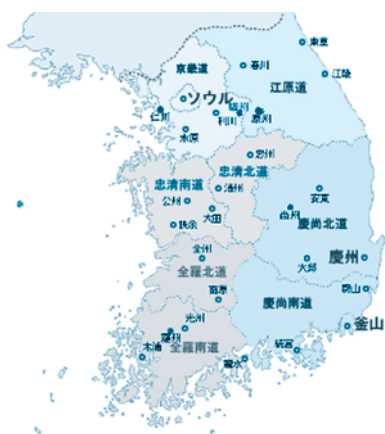
日中両国の関係は一衣帯水の「隣国」であり、日中関係が将来に渡って健全に発展する為に、友好都市交流が果たす役割は今後ますます重要になるものと考えます。

日韓における地方間の交流と現実

国際言語文化センター教授 金 泰 虎

グローバル（Global）化時代を迎え、人々の交流は国境を越えて盛んに行われています。この交流を支える意味で言語の習得と、その教育が活発になるとともに、地方行政や個別機関が諸外国との間で姉妹友好関係を結んだりする事例はよく見かけられます。地方行政、例えば兵庫県は韓国の慶尚南道、神戸市は仁川市と友好親善の関係を結んでいます。個別の教育機関としての甲南大学は、韓国のソウルにある漢陽大学や慶熙大学、そして釜山の東義大学と交流を行っています。この地方行政、そして甲南大学の韓国との交流関係の締結は、いずれもグローバル化時代に突入してからのことです。

兵庫県と神戸市の説明はさて置き、まず韓国の慶尚南道と仁川市について簡単な説明を行いたいと思います。次の地図はコリア（Korea）半島の全図ではなく韓国だけを示していますが、ここで見る「道」というのは日本の県よりやや大きい行政単位です。コリア半島の東南端に位置している慶尚南道は、日本と最も近く対馬から47kmしか離れていません。特に、慶尚南道のエリア（Area）には韓国第2の都市で東北アジア（Asia）のコンテナ（Container）物流の拠点である港町の釜山が含まれています。



釜山をはじめとする慶尚南道の諸港は、前近代から日本との交流に大きな役割を果たしてきています。例えば合浦（今の馬山）は、鎌倉時代に起きた文永（1274年）・弘安（1281年）の役の際、高麗と蒙古の連合軍が日本に向けて出撃をした港です。室町時代になると、朝鮮王朝は、朝鮮半島の沿岸を襲撃して略奪を繰り返す倭寇の弊害を和らげるため3つの浦である「三浦」、つまり富山浦（今の釜山）・乃而浦＝齊浦（今の熊川）・塩浦（今の蔚山）を交易の港として提供していました。とりわけ、文禄（1592年）・慶長（1597年）の役の時に釜山は豊臣秀吉軍が最初に上陸し攻撃をしました。そして、江戸時代の釜山は朝鮮王朝からの「朝鮮通信使」（朝鮮王朝が日本に派遣した外交使節）が日本に向けて出発した港でもあり、「三浦」の開港場が統廃合を繰り返し、最終的には釜山に「倭館」（日本人使節接待のための客館並びに居留地域を指し、使者の応接所、貿易所などが設営されていた場所）を設け明治期を迎えました。

一方、仁川は日韓の丙子修好条約（1876年）の締結によって開港され、甲南大学の創立者である平生夙三郎先生は仁川に渡り夜学の活動をしたと言われています。グローバル化時代に入って仁川には、東北アジアのハブ（Hub）空港が建設され、それ以降は港より「仁川国際空港」として知られるようになりました。

要するに、慶尚南道は前近代から今日に至るまで日本との交流を盛んに行っている地域であり、仁川はグローバル化時代以降、港町よりは空の玄関口として日韓の交流を支えています。

ところで、1919年から1945年まで日本が韓国を植民地支配したということで、韓国では解放後から今のグローバル化時代に至るまで日本と未来志向的な交流よりは、過去のわだかまりに拘る「政治的論理」が強いこともあり、両国間の交流に影を落としています。ことに、今の韓国のリベラル（Liberal）政権は国民に政治的論理の「反日感情」を煽り政権維持の手段として活用しています。この傾向は行政や民間レベル（Level）の日韓交流を妨げる要因になっています。これに追従する形で地方行政の慶尚南道や仁川市は、訪問団の来日を取りやめています。

地方行政における交流の現状とは対照的に日韓の政治的対立の中でも大学間の交流、すなわち甲南大学が韓国で行う夏季講座、春季講座、エリアスタディーズ（Area Studies）講座は実施され、また留学希望者の留学先として提携校の漢陽大学・慶熙大学・東義大学に学生を送る交流の関係は維持されていました。しかし、新型コロナウイルス（Coronavirus）の流行が日韓交流に追い打ちをかけています。つまり、今や新型コロナウイルスの影響で大学間の交流まで凍結され、実に交流の超氷河期を迎えていると言えます。

日韓同士は隣国であるがため懸案も多く抱えていますが、相互が同心円的に国際交流と国際理解を進める場合、隣国理解は欠かせません。その意味で、日韓はともに未来志向的な目標のもと互いに長所を出し合う交流、それをベース（Base）にして未来を開いていくということ、地方行政や個別の教育機関が牽引して行ってほしいと思います。

友好・親善には日本語も

国際言語文化センター准教授 谷 守 正 寛

本号のテーマ「兵庫県と世界の友好・親善都市」に即して考えるに、筆者は友好或いは姉妹都市については全くの門外漢であって専門的な知見・経験を持ち合わせているわけではないので、筆者の身近な町における友好都市との交流を眺めつつ、自身の分野という意味で日本語教育との兼ね合いについて参考になるお話になるようにしたいと思います。

筆者の住む淡路島は片田舎ですが島内3市のうち2市がアメリカの町と交流の提携を結んでいますから、県内のどんな小さな町でも海外の都市と何らかの交流をしていると考えてよいでしょう。ただ、それらを取り上げて紹介するだけでは受け売りの情報にしかならないので、ささやかながら交流の状況を見ながら、参考になるかもしれないことを少しく述べたいと思います。

まず南あわじ市では、米国オハイオ州セライナ市と毎年、派遣・受入の相互交流を行っています。派遣学生に対する事前研修として経験者の体験談を講話したという記事も、2014年6月から更新されていないので、マメな情報発信も厳しいことが窺えますが、外国との交流事業の継続はなかなか大変なのでしょう。洲本市では米国オハイオ州ヴァンワート市訪問団受入事業があり、2019年7月に4日間21名受入れの情報があります。手短かにキーワードで紹介すれば、ホームステイ、天然海魚の見学、淡路人形浄瑠璃鑑賞、鳴門渦潮観賞、高校訪問・部活体験、伊弉諾神宮参拝、地元特産の吹き戻し製作、花棧敷訪問・大阪湾展望、海水浴とスイカ割り、阿波踊り体験といったように、その地域ならではの特長ある体験を取り入れるのが、おそらくどこの町でも交流の柱になっているでしょう。そして、定番の相互理解・相互発展が期待されるということになります。

さて、筆者の立場から嘴を容れるなら、日本語の活用を提案したいと思います。これは受入れだけでなく海外に行く場合でも同じことで、上述のような事業の目標に「相互理解」とあるように、そのための言葉による交流も要諦になると考えます。引率・同行しながら日本文化もさることながら自分たちの言葉を教えたり説明したりできれば、そこから話のネタが広がり、さらに楽しく深く相互理解ができるでしょう。筆者もそれがきっかけで言語研究の世界に入ったのでそのことは経験値に入ります。町の交流なら地元方言も副えるべき材料として面白いでしょう。

姉妹都市とは外れますが『淡路多文化共生モデルの構築』（財ひょうご震災記念21世紀研究機構、平成21年）によれば、淡路島において多文化共生のモデル地域を構築する戦略として、「企業などとの連携による外国人住民の日本語教育への参加奨励」「外国人の子どもたちに対する日本語教育の実践」が指摘されているように、日本語教育の専門家でなくとも重視している部分であることは注目できます。日本語のどんなことをどう教えるのか、日本語教育の世界を垣間見て知ってもらうために、手前味噌になってしましますが、現在は無料で公開されている筆者の初級教材を紹介します。図中に Preview / Download アイコンがあります。

<https://www.pdfdrive.com/handbook-of-japanese-grammar-tuttle-language-library-el75801431.html>

姉妹都市との交流に限りませんが、文化の紹介と共に言語のことも貴重な相互理解の切っ掛けになることは請け合いです。どうやって日本語を外国語で説明するかが参考になれば幸いです。因みに、さらに言語と文化に突っ込みを入れた拙著『Essential Japanese Grammar A Comprehensive Guide to Contemporary Usage』も検索して参考にしてみてください。ついでながら、甲南大発の教科書として、ふんだんに文化的要素も取り入れ馴染みやすく執筆した『A Workbook for Self-study Japanese Grammar』（2020）も参考にしてみてください。姉妹都市へ派遣されたら楽しく日本語も教えながら、自分の町や文化を紹介すると、きっと交流と相互理解が深まると思います。

